

教育課程

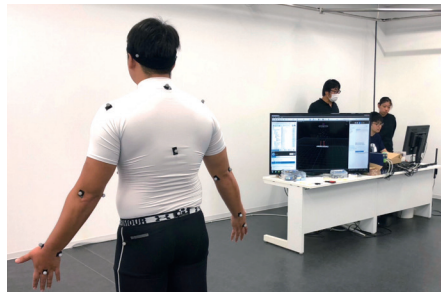
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考	授業形式
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
基礎科目	文化科目群 スポーツ学	スポーツ共生社会特論	1前	2			○			●
		スポーツインテグリティ特論	1前	2			○			●
		障害者スポーツ実践特論	1後		2		○			●
		発育発達学特論	1前		2		○			●
		小計(4科目)	—	4	4	0	—			
専門科目	身体運動・コーチ科学科目群	身体運動学特論	1前	2			○			●
		スポーツコーチング特論	1後	2			○			●
		スポーツ心理学特論	1前	2			○			●
		スポーツメンタルトレーニング特論	1後	2			○			●
		実践トレーニング特論	1前	2			○			●
		環境生理学特論	1前	2			○			●
		スポーツ理学療法学特論	1前	2			○			●
		スポーツ医学特論	1前	2			○			●
		スポーツ栄養学特論	1前	2			○			●
		小計(10科目)	—	20	20	0	—			
	スポーツ人文・社会科学科目群	スポーツ哲学特論	1後	2			○			●
		スポーツ史特論	1後	2			○			●
		スポーツ社会学特論	1後	2			○			●
		スポーツビジネス特論	1前	2			○			●
		スポーツマネジメント特論	1後	2			○			●
		スポーツ人類学特論	1後	2			○			●
保健体育科教育特論	1後	2			○			●		
小計(6科目)	—	12	12	0	—			共同	●	
展開科目	科目群 身体運動・コーチ科学	スポーツコーチング演習A	2前	2			○		共同	◆
		スポーツコーチング演習B	2前	2			○		共同	◆
	科目群 社会科学	スポーツフィールドスタディ演習A	2前	2			○		共同	◆
		スポーツフィールドスタディ演習B	2前	2			○		共同	◆
小計(4科目)	—	0	8	0	—					
研究指導科目	スポーツ科学研究I	1前	2				○			
	スポーツ科学研究II	1後	2				○			
	スポーツ科学研究III	2前	2				○			
	スポーツ科学研究IV	2後	2				○			
	小計(4科目)	—	8	0	0	—				
自由科目	研究方法概論I	随時			1	○				▲
	研究方法概論II	随時			1	○				▲
	研究方法概論III	随時			1	○				▲
	研究方法概論V	随時			1	○				▲
	先端老年社会学講座	随時			1	○				■
	統計解析講座	随時			1	○				■
	リハビリテーション特論I	随時			1	○				◆
	リハビリテーション特論II	随時			1	○				◆
小計(4科目)	—	0	0	8	—					
合計(32科目)	—	12	44	8	—					

※開講科目・開講期等は現時点の予定であり、変更の可能性があります。

●:対面・オンライン併用 ◆:対面(一部開講回でのオンライン含む) ▲:オンデマンド ■:対面・オンライン併用(一部オンデマンド) なし:指導教官と相談の上決定する

修了要件

本研究科に2年以上在学し、基礎科目から6単位以上(必修4単位を含む)、専門科目から14単位以上(研究領域の科目群からの8単位以上を含む)、展開科目2単位以上、研究指導科目8単位、合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、修士論文審査および最終試験に合格すること。自由科目は修了要件には該当しない。



授業風景



修士論文発表会

入学試験

入学試験志願者は、事前に論文指導を希望する本研究科の教員と相談を必ず行ってください。相談のご連絡は日本福祉大学美浜事務室(スポーツ科学研究科担当)へ電話またはメールにて連絡してください。

【入学相談会申し込み】
スポーツ科学研究科を
クリック



入学試験区分	一般入学試験	AO入学試験	スポーツ科学部特別入学試験
出願期間	[第1期] 2026年10月9日(金)～2026年10月23日(金)	[第2期] 2027年1月15日(金)～2027年1月29日(金)	※消印有効
試験日	[第1期] 2026年11月8日(日)	[第2期] 2027年2月13日(土)	
合格発表日	[第1期] 2026年11月14日(土)	[第2期] 2027年2月20日(土)	
選抜方法	<ul style="list-style-type: none"> 「書類」 各種申請書類 「筆記:英語」 スポーツ科学の自然科学分野および人文社会科学分野の設問各1問(計2問)を出題(辞書持込可 ※電子辞書不可) 「筆記:小論文」 スポーツ科学領域の共通設問と、選択したスポーツ科学領域に関する設問の2題を出題 「面接」 志願理由および研究テーマなどに関する事項 	<ul style="list-style-type: none"> 「書類」 各種申請書類 「筆記:小論文」 スポーツ科学領域の共通設問と、選択したスポーツ科学領域に関する設問の2題を出題 「面接」 志願理由、競技成績、実務経験、研究テーマなどに関する事項 	<ul style="list-style-type: none"> 「書類」 各種申請書類 「面接」 志願理由および研究テーマなどに関する事項
試験会場	[第1期・第2期] 名古屋キャンパス		

学費(2027年度予定)

入学金(初年度のみ)	200,000円
授業料(年間)	600,000円
教育環境充実費(年間)	142,500円
学生教育研究災害障害保険料(2年間)	1,750円
学研災付帯賠償責任保険料(2年間)	680円
合計(初年度通常学費)	944,930円

本学学部卒業生、本法人が設置する専門学校および付属高等学校卒業生の入学金は半額となります。

長期履修制度

標準修業年限の2年では大学院の教育課程の履修が困難な者に限り、あらかじめ計画的に3年間での修学を認める制度です。本制度の適用を申請し、それが認められた場合の授業料は、通常の2年間分の授業料を3年間で分割納入することができます。なお分割納入の方法としては、1年目は授業料の満額、2・3年目は授業料の半分ずつを分割する形となります。

オンライン併用科目

スポーツ科学研究科で開講する多くの科目が対面だけでなく、オンラインでも開講しています。どの科目がオンライン併用科目に該当するかは左側の教育課程授業形式をご参照ください。

教育訓練給付制度

本課程は、厚生労働省の「教育訓練給付制度」の指定講座です。教育訓練給付制度は、一定の条件を満たす雇用保険の一般被保険者(在職者)または一般被保険者であった方(離職者)が本専攻を修了し、申請することによって1年分の教育訓練費の20%に相当する額(上限10万円)がハローワーク(公職職業安定所)から支給される制度です。※支給要件の詳細はハローワークにお問い合わせください。(講座指定期間:令和10年3月31日)※継続申請予定

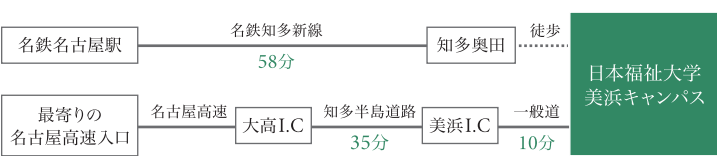
科目等履修生

本学大学院で開講されている授業科目を正課生と一緒に受講し、当該科目の単位を修得することができる制度です。科目等履修生として修得した単位の一部は、入学後に既修得単位として認定が可能です。

こんな方に
オススメ

1. 大学院の授業内容を知ってから入学を検討したい方
2. 既修得単位認定により、入学後に効率的に履修をしたい方

美浜キャンパスへのアクセス



【お車で越した方へ】カーナビの目的地を「知多奥田駅」と設定すると、正門へのアクセスが便利です。

●お問い合わせはこちらまでお願いいたします。
日本福祉大学 美浜事務室(スポーツ科学研究科担当)
〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6
TEL:0569-87-2322 (代表)
FAX:0569-87-2273
e-mail:sp-g@ml.n-fukushi.ac.jp



日本福祉大学大学院 スポーツ科学研究科 修士課程<2027>

Graduate School of Sport Sciences



日本福祉大学

研究科長 ご挨拶

～すべての人がスポーツによって輝ける社会の実現に研究成果を活かそう～

本研究科では、最新のスポーツ科学の研究手法を駆使し、大学院生一人ひとりが自然科学分野または人文・社会科学分野の課題に挑戦し、その解決を図る高度専門職業人の育成を目指しています。こうした人材は2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機として高まる「健康で豊かなスポーツライフ」、すなわちスポーツを通じた一人ひとりのウェルビーイングの実現に必要な人材です。また、ハラスメントのないスポーツ界の構築や、スポーツを通じた共生社会の実現は、スポーツ基本法に込められた理念であり、本研究科がこれまでも、そしてこれからも追求していく目標です。研究を通じて性別、年齢、障害の有無にかかわらず、すべての人がスポーツによって輝ける社会の実現に一緒に挑戦してみませんか。

スポーツ科学研究科 研究科長 藤田 紀昭

スポーツ科学研究科の概要

研究科名：スポーツ科学研究科 (Graduate School of Sport Sciences)	入学定員：10名(収容定員20人)
専攻名：スポーツ科学専攻 (Division of Sport Sciences)	取得可能資格※：中学校教諭専修免許状(保健体育)
学位名：修士(スポーツ科学) (Master of Sport Sciences)	高等学校教諭専修免許状(保健体育)

※取得にあたっては、専修免許状の基礎となる1種免許状(保健体育)を取得していること、あるいは、1種免許状(保健体育)を取得見込みであること。

修了後の進路

- スポーツ関連組織のスタッフ：競技スポーツの指導者と、それを支えるスポーツ科学センター等の研究員や医・科学サポートスタッフ、国内外の各種競技団体スタッフ、スポーツクラブのエグゼクティブマネージャー、専門的知識を備えたアスリート等
- 教育職：中学校・高等学校保健体育科教員※、特別支援学校教員、特別支援学級教員※
- 行政職：官公庁のスポーツ・健康関連部局の職員、健康政策の国際専門機関職員等
- 一般企業：①スポーツクラブ等スポーツを直接的に扱う企業(スポーツ・健康・フィットネス関連企業等)の上級スタッフ、研究開発職等 ②スポーツを間接的に扱う企業の上級スタッフ(メディア産業の基幹要員、スポーツ映像プロデューサー、スポーツイベントクリエイター等) ③スポーツに関連のない企業の健康運動指導の専門家、健康管理部門等の責任者等
- 研究職としての研鑽を積むために他大学院の後期課程への進学等

※大学院入学前に該当する校種・科目の免許状を取得していることが必要です。

教育課程

基礎科目は「スポーツふくし・文化科目群」によって編成し、関連する科目を、専門科目と展開科目に配置し、それらを補完する自由科目で構成しています。修士論文は「スポーツ科学研究I・II・III・IV」によって完成させる構造となっています。

想定される進路

- 中学校・高校保健体育科教員※
- 特別支援学校教員※
- 官公庁のスポーツ・健康関連部局職員
- 健康政策の国際専門機関職員
- 一般企業



想定される進路

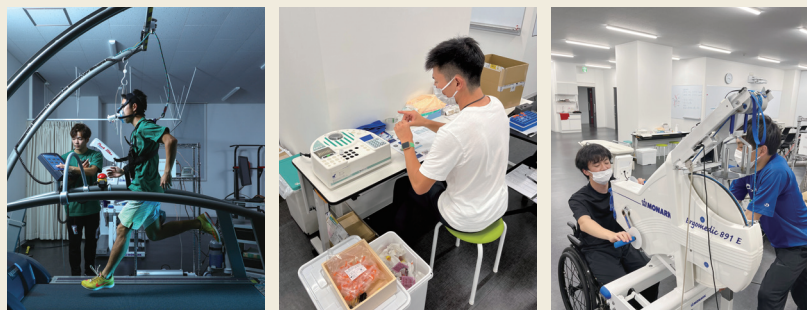
- 中学校・高校保健体育科教員※
- スポーツ・健康関連企業上級スタッフ
- スポーツ映像プロデューサー
- スポーツイベントクリエイター
- 各種企業の健康運動指導の専門家や健康管理部門の責任者

※大学院入学前に該当する校種・科目の免許状を取得していることが必要です。

Sports Lab SALTO

～研究を支える充実の学修環境～

移動路が完全バリアフリー設計の学習施設「スポーツラボ・サルト」には各種実験室をはじめ、バスケットボール公式コート3面がとれる演習室、25m×6コースのメインプールと水深可変(0～120cm)のサブプール20m×2コースを備えた屋内温水プールなどを完備。高度な演習・研究に応えます。



大学院担当専任教員



バイオメカニクス、トレーニング科学を専門とする。主にバイオメカニク的手法を用いてパフォーマンスやトレーニングを評価・分析する研究を行う。

講師
石村 和博※



スポーツマネジメント、スポーツビジネス分野の研究指導を行う。スポーツ組織のマネジメントに関わる諸問題、法律やファイナンス、スポーツ消費者やマーケットセグメンテーション等に関する研究を指導する。

准教授
住田 健



スポーツ生理学、環境生理学分野の研究指導を行う。高地、寒冷および暑熱環境下でのトレーニング効果や生理機能の変化、熱中症対策に関する研究を指導する。

教授
西村 直記



身体運動学分野の研究指導を行う。身体構造と機能、スポーツバイオメカニクス、パフォーマンス分析、トレーニングおよび運動制御に関する研究を指導する。

准教授
松田 有司



スポーツ心理学分野の研究指導を行う。行動の制御・学習、XR(VR・AR・MR)、知覚・認知などを対象とした研究を指導する。

准教授
山本 真史



スポーツ理学療法分野の研究指導を行う。スポーツ外傷の発生に関係する動作等の要因分析から、外傷予防やリハビリテーションの方法と効果等に関する研究を指導する。

教授
小林 寛和



スポーツ哲学、スポーツ倫理学分野を専門とする。スポーツの価値や意味、スポーツの本質や倫理、インテグリティ、暴力問題等に関しての研究を行う。

講師
高尾 尚平※



スポーツ社会学、障害者スポーツ分野の研究指導を行う。障害者のスポーツを含むスポーツ事象の発生機序、意味や構造、メディア分析、歴史社会学等の研究を指導する。

教授
藤田 紀昭



健康者および障害者のスポーツコーチング分野の研究指導を行う。健康者および障害者のコーチングの方法、コーチングに関するデータと分析等に関する研究。パラ選手に対するトレーニング方法に関する研究を指導する。

教授
三井 利仁



健康教育学、発育発達学、行動科学分野の研究指導を行う。ヘルスプロモーションをふまえた発育発達、行動変容、ホリスティック等に関する研究を指導する。

教授
吉岡 隆之



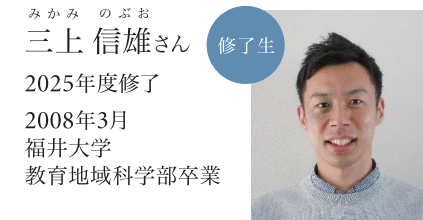
QRコードから各教員の業績をご確認頂けます。
※印が付いている教員は修士論文指導は担当しません。

大学院生VOICE



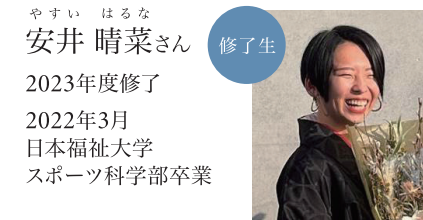
みやけりょうすけ
三宅 亮輔さん
2025年度入学
2010年3月
星城大学
リハビリテーション学部卒業

遠方に住みながら仕事と両立して学んでいますが、オンライン授業のおかげで通学の負担を大きく抑えられ、無理なく受講を続けながら、着実に単位修得にも取り組んでいます。授業ではスポーツ科学を幅広く学ぶだけでなく、少人数ならではの環境で先生方や大学院生と積極的に意見交換をしながら、自分では気づけなかった視点や考え方に触れられることも多く、学びを深められる点が魅力です。研究面でも、指導教員と密に相談しながら課題の一つひとつ丁寧に整理し、自ら考えて主体的に研究を進められている実感があり、充実した学びの日々につながっています。



みかみのぶお
三上 信雄さん
2025年度修了
2008年3月
福井大学
教育地域科学部卒業

障害のある方の運動・スポーツに関心を持ち、特別支援学校で勤務をしながら、大学院で視覚障害児者の運動・スポーツ活動に関する実態や障壁について研究しました。仕事と学業の両立は容易ではありませんでしたが、大学院で得た知見を日々の教育実践に活かすことで、大学院での学びをより深めることができました。また、物事を多様な視点で捉えて考える大切さを学び、現在も意識しています。今後もアダプテッド・スポーツの研究や実践を継続するとともに、子どもたちが笑顔で運動やスポーツに親しめる環境づくりに努めていきたいと考えています。



やすい はるな
安井 晴菜さん
2023年度修了
2022年3月
日本福祉大学
スポーツ科学部卒業

高齢者スポーツに興味を抱き、大学院での研究を通じてその価値を深く理解しました。その後、健康づくりやトレーニングに関する商品を提供する企業に就職しました。大学院での学びは、研究指導を通じて結果への筋道や根拠を重視する姿勢を身につけてくれました。これは私にとって、就職活動においてだけでなく、人生の決断においても重要な基準となりました。その結果、自分自身が真に価値を感じるものを追求する意志がより明確になりました。大学院で培ったこの価値観は一生の財産となり、学生時代から現在に至るまで、さまざまな場面でその重みを感じています。

院生の研究テーマ・内容(例)

- 研究テーマ「視覚障害児者の運動・スポーツ活動の実態と障壁に関する研究」
視覚障害児者373名を対象にスポーツ実施の障壁を調査。学齢期は内面的な障壁、成人期は時間等の外的な障壁が顕著である実態を明らかにした。「他者への依存」が共通の課題となる一方、盲学校在学が初期の人的ネットワーク形成に重要な役割を果たすことを示し、ライフステージに応じた支援の必要性を提言する研究内容となった。
- 研究テーマ「女性パラアスリートにおける障がい・年代別 月経前症候群(PMS)の特徴」
女性パラアスリート114名を対象にPMSの実態を調査。有病率は14.0%で健康者と同程度であったが、月経痛やコンディション変化が競技パフォーマンスに強く関連することが判明。障がい・特性や生活背景を踏まえた、パラアスリート特有の婦人科的支援の在り方を検討するための重要な基礎的知見を提供する研究内容となった。
- 研究テーマ「アイススラリ―摂取による車椅子ソフトボール選手の身体冷却効果」
暑熱環境下で活動する車椅子ソフトボール選手を対象に、アイススラリ―摂取による身体冷却効果を検証。通常の飲料より少ない発汗量で効果的に体温を低下させることが明らかになった。体温調節機能に制約がある身体障がい者にとって、簡便かつ有効な熱中症対策としての有用性を示唆することができる研究内容となった。

研究指導に関する流れ

